

市民公開講座 認知症の基礎知識

広島市東部 認知症疾患医療センター
センター長 古庄 立弥

認知症の定義

- **狭義の「認知症」**: 以前の定義
 - 何らかの原因で、正常に発達した知的機能が持続的に低下し、複数の認知障害があるために社会生活に支障をきたすようになった状態
 - 進行性で発症前の状態への回復は見込めない
- **広義の「認知症」**: 最近の定義
 - 数週間以上にわたり知的機能が低下している状態
 - 原因によっては、知的機能の回復が見込める

日常生活、社会生活に支障がなければ問題ないのでは？

認知症疾患を患っていても、問題ない人たちは多くいるのでは？

認知症の主な原因疾患

(1)神経変性疾患

①アルツハイマー型認知症

②非アルツハイマー型認知症：びまん性レビー小体病、ピック病、神経原線維変化型老年認知症、嗜銀顆粒性認知症、運動ニューロン疾患に伴う認知症、進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症、ハンチントン病など

(2)脳血管障害(脳血管性認知症)

脳出血、脳梗塞など

(3)その他の原因疾患

①内分泌・代謝性中毒性疾患：甲状腺機能低下症、下垂体機能低下症、ビタミンB₁₂欠乏、ビタミンB₁欠乏、ペラグラ、脳リポドーシス、ミトコンドリア脳筋症、肝性脳症、肺性脳症、透析脳症、低酸素症、低血糖症、アルコール脳症、薬物中毒など

②感染性疾患：クロイツフェルト・ヤコブ病、亜急性硬化性全脳炎、進行性多巣性白質脳症、各種脳炎・髄膜炎、脳腫瘍、脳寄生虫、進行麻痺など

③腫瘍性疾患：脳腫瘍(原発性、続発性)、髄膜癌腫症など

④外傷性疾患：慢性硬膜下血腫、頭部外傷後後遺症など

⑤その他：正常圧水頭症、多発性硬化症、神経ベーチェット、サルコイドーシス、シェーングレン症候群など

認知症の主症状は物忘れ？

主な症状型と代表的症状

- **アルツハイマー型**
 - 視空間認知障害、記憶障害、意欲低下が特徴
- **レビー小体型**
 - 幻視、自律神経症状、歩行不安定が特徴
- **前頭側頭型**
 - 脱抑制、思いつき行動、協調性の低下が特徴（ピック型）
 - 意欲・活動性低下もときにみられる（アパシー）
- **脳血管性**
 - 認知機能が体調に左右される（まだら認知症）
 - 障害部位により様々な臨床型を示す
 - ラクナ梗塞と変性疾患が合併することもある（混合性認知症）

いわゆる若年性認知症とは

- 若年期認知症

- 18から39歳までの間に発症した認知症

- 初老期認知症

- 40から64歳までの間に発症した認知症

若年性認知症

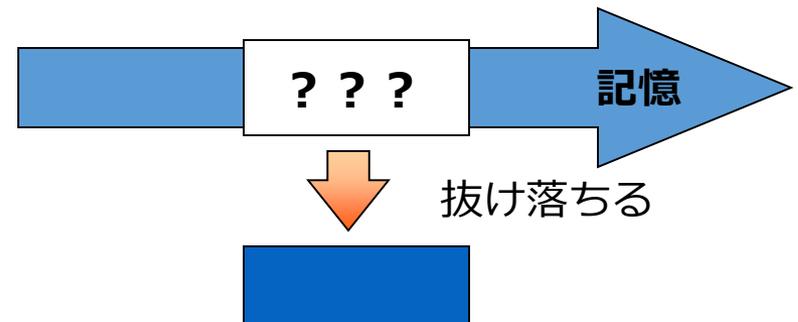
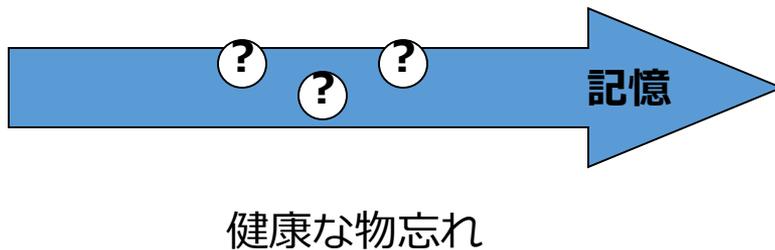
- 老年期認知症

- 65歳以降に発症した認知症

「良い物忘れ」と「悪い物忘れ」

- 体験の一部を忘れる
- 後から思い出せる
- 物忘れの自覚がある
- 進行しない
- 日常生活に支障がない
- 時間や場所の見当がつく

- 体験の全体を忘れる
- 後から思い出せない
- 物忘れの自覚がない
- 徐々に進行する
- 日常生活に支障がある
- 時間や場所の見当がつかない



認知症を疑うポイント

▶ 仕事などで面会約束を守れなくなった

▶ 調理のバラエティが減った

▶ 同じ品物を買ってくることがある

▶ 何事につけ段取りがうまくできなくなってきた

▶ 手順が悪くなってきた

アルツハイマー型を疑う

▶ 幻視体験、隣在感（見えない誰かがそばにいる）

▶ 歩き方がギクシャクして不安定

レビー小体型を疑う

▶ 短気になった、落ち着いて話が聞けない

▶ 体調不良を訴えて再々救急車を呼ぶ

▶ 高齢発症の依存症（アルコール、ギャンブルなど）

前頭側頭型を疑う

軽度認知機能障害

(MCI: mild cognitive impairment)

- ▶アルツハイマー型の前駆段階？
- ▶4年以内に5割が認知症へと進展
 - ▶主観的な物忘れの訴え
 - ▶年齢に比して記憶力が低下
 - ▶日常生活動作は正常
 - ▶全般的認知機能は正常
 - ▶認知症とはいえない（75歳でHDSRが25点程度）
- ▶逆に数年内に正常レベルに回復する例もある
 - ▶生活指導と経過観察が重要

認知症（主にAD型）の人の心理的特徴

▶ 自分が認知症であるという自覚がない

自分で「ぼけた」と言っている場合にも、半ば謙遜したり、周りにからかわれていることが口癖のように言っている場合が多い

▶ 自分の行動にプライドをもっている

自分が失敗したことを見せまいとして、「問題行動」を起こしてしまう

▶ 自分の衰えなどに対しては不安な心理状態

ちょっとしたことで泣いたり、怒ったり、落ち込む

▶ 機嫌のいいときは落ち着いている

機嫌がいいときは穏やかで、ニコニコしている。

感情は研ぎ澄まされている

- 言葉だけではなく、眼差しや態度が重要
- その時々を感じる喜怒哀楽はとても豊か
- 感情の記憶は出来事の記憶に勝る
 - 良い感情も悪い感情も余韻が残る
 - 何が楽しかったのか辛かったのかを忘れても、楽しかった感情や辛かった感情は覚えている
- 感性、美意識、年長者の誇りは残っている
- 他者や子供を慈しむ気持ちは、上手く表現できない分だけ内面に秘めている

対応：話を聞き、簡潔に伝える

- 現実にはありえないような話も否定しない
- 本人の得意な話や、最も輝いていた時代の話は、何度同じことを語ったとしても真剣に聞く
- 混乱が強いときは話に入り込まずにそっとしておく
- 単純な内容を一つ一つ伝える
- 本人に伝わる呼び名や言葉を使う
- 本人の故郷の言葉を使う
- 本人の心と身体が動く「言葉」「話題」を探す
- 時には本人が忘れることを周囲も利用する

対応：新しいことはゆっくりと繰り返す

- 忘れやすいのが認知症
 - 一瞬一瞬の関わりを大切にする
- 折にふれ名前、日時、場所などの基本的な事柄を伝える
- 時間と出来事の関係を知らせる
 - 例：「朝(時間)ごはん(出来事)ですよ」
- 見やすい日めくり、暦、時計を身近に置く
- 何を言うかではなく、誰が言うかが重要
 - 本人にとっての馴染みの人は生活上で重要な相手
 - 馴染みの人には安心感がある

ご清聴ありがとうございました

